科目区分　学部：特別支援教育教員養成課程（前期）

授業科目　言語・コミュニケーション発達論

特別支援教育講座　花熊　曉
受講者数　16 名

１．授業の目的

本授業は、特別支援教育教員養成課程３回生を対象に、言語・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの発達とその障害に関する知識の習得と、その知識に基づいて支援方法を考える力の習得を目標としている。

２．授業の方法

本授業のシラバスには５つの到達目標を挙げているが、今年度の授業では、到達目標⑵に該当する「自己の日常経験に基づいて授業内容を理解する」ことに重点を置き、グループ討議を多く取り入れて、自閉症児と接した自己の日常経験と照らし合わせながらアクティブに学ぶ授業方法を取り入れた。

全 15 回の授業の中で、言語の発達に関する討議３回と自閉症児の行動特徴の解釈に関する討議４回の計７回のグループ討議の時間を設け、討議結果を発表させた後、各討議テーマが言語・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの発達において、どのような意味を持つのかを教員が説明するようにした。

３．受講者について

特別支援教育課程の３回生 16 名と東雲大学の単位互換の学生１名の計 17 名である。

４．授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア）授業の内容に関するもの：２項目、イ）グループ討議に関するもの：２項目、ウ）教員の説明のしかたや配布資料に関するもの：２項目、エ）授業時間外学習に関するもの：１項目、オ）授業の感想と改善意見（自由記述）、の計８項目からなるアンケートを実施した。

（ア）授業内容について

項目１「授業内容に興味・関心が持てたか」については、“非常に”と答えた者９名、“かなり”と答えた者８名であった。

項目２「授業で学んだ内容は今後子どもを指導する時に役立つものだったか」については、“非常に”12 名、“かなり”５名であった。

（イ）グループ討議について

項目３「討議内容」と項目４「討議回数」については 17 名全員が“適切”と回答し、項目８の自由記述欄にも、「能動的に学ぶことが出来て、やりがいのある楽しい授業だった」、「討議課題は難しかったが、自分で考えることができて良かった」、「他者の意見を色々聞けたのが良かった」等の感想が多く書かれていた。

（ウ）教員の説明のしかたと配布資料について

項目５「教員の説明とプレゼンテーション」については、“非常に適切”が 12 名、“かなり”が５名であった。また、項目６「配布資料」については、“非常に適切”が 10 名、“かなり”が５名、“どちらとも言えない”が２名であった。この２名は、自由記述で「資料の量が多すぎて理解が難しかった」と記していた。

５．授業時間外学習について

アンケートの項目７「授業時間外学習をどの程度したか」については、“時々した”と答えた者が７名、“あまりしなかった”と答えた者が 10 名で、十分には学習が行われていなかった。本講義では、授業時間外学習について、いわゆる「宿題」の形で次時に提出を義務づける形態はとらず、文献を紹介して購読を勧めたり、討議テーマについてさらに自分で資料を調べるように指示したりするにとどめたが、それだけでは授業時間外学習の促進に不十分なことが明らかとなった。

６．授業の評価と課題

本授業のねらいであったアクティブラーニングの授業形態については、受講者全員が「非常に適切」と評価し、自由記述欄でも高評価が得られていて、ねらいを十分に達成できたと言える。

これに対して、授業時間外学習については達成が全く不十分で、学生が授業時間外に積極的に学習を行うためには、どのような課題内容、課題形態、授業方法の工夫が必要なのか、次年度に向けて新たな取り組みを考える必要がある。